

なるの里 だより

2023年 10月

第45号



社会福祉法人 **なる共生会**

特別養護老人ホームなるの里
なるの里短期入所生活介護事業所
デイ・サービスセンター太陽
奈留高齢者生活福祉センターやすらぎ荘

〒853-2204 長崎県五島市奈留町船廻879番地1
TEL 0959(64)4848 / FAX 0959(64)4846
TEL 0959(64)2552 (やすらぎ荘)
E-mail : tokunaru@aquarius.interq.or.jp



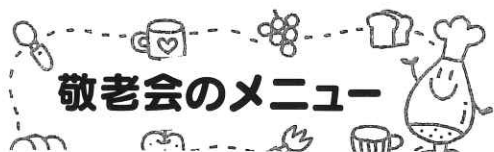
LINE
QRコード



敬老祝賀会

9月15日

なるの里敬老祝賀会が
開催されました。カラオケや
スライドショーなど、お年寄りと
一緒に笑い、感動し、楽しい
一日を過ごすことができました。



おめでとう
ございます



なるの里、最高齢者
矢口豊太郎様 98歳 堤千里様 98歳



鬼は～外!!
福は～内



豆蒔きをして
邪気を払って
くれました。
これからもっと、もっと
長生きします。



「年女です」

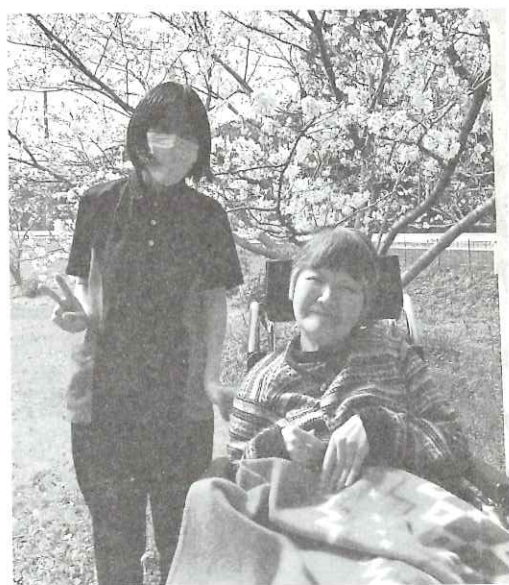
節

分

R5.2.3



親子でニッコリ



ハイチーズ
あら～、へんな顔♡



夫婦で仲良く



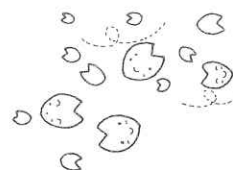
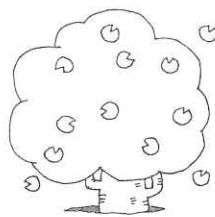
ハイチーズ



お
花
見

R5.3.28

天気に恵まれ、桜も満開で
最高のお花見になりました。





花祭り

R5.4.8

お釈迦様の誕生を祝い、
皆で甘茶を頂きました。
お花もすごくきれいですねえ

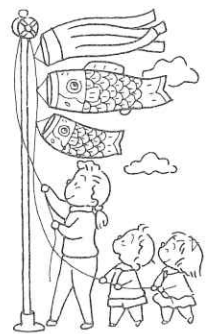


兜がとってもお似合いですね♥



こどもの日

R5.5.5

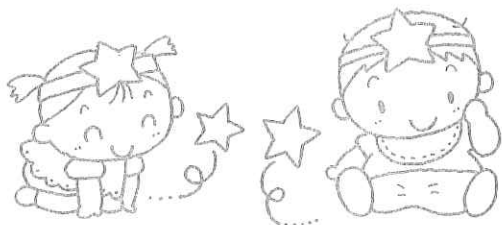


コロナ禍でも
皆さん元気です



病気をせずに
毎日楽しく過ごせますように





ハイチーズ
願いが叶うといいですね。



七夕飾りは、利用者の
北川奈美子さんが毎日こつこつと
作ってくれた物です。皆、それぞれが
短冊に願いを込め飾ってくれました。

七

夕

R5.7.7



赤瀬千代子様
S10.2.26
88歳になりました。



お
誕
生
日

田口能久様	73歳	柿森妙子様	95歳
福島キセ様	92歳	葛島フジノ様	94歳
西村徳一様	89歳	村木忠子様	93歳
赤瀬工ミ様	94歳	北川奈美子様	69歳
谷内ミツ子様	81歳	夏井千代子様	95歳
堤 千里様	98歳	宮脇キ又工様	92歳
宮崎トキ子様	85歳	田中ミキ工様	92歳
窄中ナミ様	91歳	中村周平様	88歳
山口チヨノ様	90歳	橋口 馨様	92歳
柿森フジ子様	93歳	小河原鈴子様	70歳
松本純子様	64歳	濱村照子様	91歳
田中ツマ様	93歳	平山幸子様	89歳
平川仲子様	91歳	以上	27名
北川 巖様	93歳		



思い出ありがとうございます

★鷹見 幾之助様 (令和五年一月十九日永眠 享年九十七歳)

私達が話しかけると、いつもやさしい笑顔で答えて下さいました。熱いお風呂と熱いコーヒーが大好きで、コーヒーを手渡すと「ああ、うんまかなあ」と言われながら、おいしそうに召し上がっていたのが、昨日の様に思い出されます。

★江上 ツギ様 (令和五年一月二十二日永眠 享年八十七歳)

お孫さんのことが大好きで「しょうた、しょうた」といつも気にされていました。大きな声で話しをされたり、笑ったりと、とても楽しい方でした。

★岩村 浅男様 (令和五年二月一日永眠 享年九十一歳)

とても淋しがり屋の方で、良く「オーイ・オーイ」と職員を呼んでいました。奥様が面会に見えられると、満面の笑みをうかべ、一緒に過ごされていました。

★山崎 力子様 (令和五年三月三十一日永眠 享年百二歳)

小板のかまぼこを丸かじりするのが大好きで、野菜屋さんが来ると、買って食べたりしていました。又、缶コーヒーが大好きで一気に入飲みほしては「あーおいしかった」とうれしそうに言われてました。きつとそれが長生きのコツだったのだと思います。

★葛島 榮一様 (令和五年六月十七日永眠 享年七十七歳)

レクリエーションや行事等、何にでも楽しそうに参加されていた。話をするのが大好きで、若い職員とも楽しそうに会話されていた。

★原塚 エキ様 (令和五年七月二日永眠 享年九十六歳)

とても穏やかな方で、声かけにも笑顔で答えて下さいました。職員が何か手伝うと「ゴメンよ」「ゴメンよ」と言いながら「気ば使わせて…。ありがとよ」といつもうれしそうに言って下さいました。

★宮崎 ツタエ様 (令和五年七月二十六日永眠 享年九十七歳)

「自分で出来ることは、頑張らんばね」と言われながら、いつも笑顔で接して下さいました。やさしく、思いやりのある方でした。

★船越 ナカ子様 (令和五年八月十一日永眠 享年九十八歳)

とても活発でユーモアのある方でした。職員を笑顔にし、和ませてくれる、そんな毎日が楽しみでした。

★夏井 俊郎様 (令和五年九月十九日永眠 享年九十一歳)

良く塗り絵をされていました。夜中も電気が点いたりすると塗り絵をされており、「大丈夫ですか?」と声かけしても「大丈夫、大丈夫」と笑顔で話されていました。とても強い方だと思います。最期までつらい顔を見せませんでした。

ご冥福をお祈りいたします。

研修会に参加して

夜勤のリスクマネジメント

研修会に参加して

特養介護職 宿輪 美千代

やはり夜間帯でのリスクマネジメントにはさまざまなリスクが挙げられます。起きる前(予測・予防)として、未然に防ぐ方法を考え、環境を整えておく。起きた後(対応・対策)として、被害を最小限にする為に適切な対処法を考え、被害を最短で解決する為に準備をしておくということです。又、急変時、適切な対応が出来るか、緊急時体制が整っているか介護職の対応の統一化、医師や看護師が利用者の観察ポイントを確認にする。緊急連絡網の整備、入院時の最低必要な物品準備(一覧にしておく)等です。他にも、不眠時の方のコール対応や徘徊者の対応等が挙げられます。

夜勤は日勤帯と比べ、人員配置が少なく業務負担が増えます。日中と比べ、変化に気付きづかけが少なくなるという事が現状です。夜勤業務を定着させる為の役割として、夜勤業務の把握をしつかりしておく、引き継ぎ、食事介助、誘導、更衣介助、眠前薬(頓服等)の介助、排泄介助、巡回・巡視、コールや徘徊者への対応、記録、特変や緊急時の対応等さまざまです。実際、他の施設でも、夜間のセンサーコールスイッチの入れ忘れが多く、課題として挙がっていました。今では眠りスキャンやシルエット見守りセンサー等といった感知する機械が導入されるようになり、スタッフの身体的、精神的負担も軽減し、離職数も減少しましたとの報告もあり、利用者の睡眠時間や体調変化にも素早く確認が出来る等メリットが多くなったとの事でした。夜勤者が抱える不安(ストレス・メンタルヘルス)には身体面(業務量・業務内容)、精神面(自己信頼・人間関係)があります。夜勤者が抱える本音として、特変者(転倒・急変者)の時、対応できるかな...コール(センサーコール)よ、鳴り響かないで...腰痛がひどくなっている気がする...等と常に抱える不安はつきものであるのですが、介護職員として、責任感を持ち、自己(体調)管理を気掛けながら、夜間業務、又、日々の業務に努めていきたいと思っています。

研修会に参加させて頂き、ありがとうございました。

「からだのしくみからケアを学ぶ」 研修会に参加して

特養介護職 葛島 加奈

今回、受講した研修では「なぜ、ケアは根拠が必要なのか?」とからだのしくみについて講師の方が実際に体験したことを交えながら話してくださいだったので、とても分かりやすく勉強になりました。

自分自身、何の為にケアをするのか?などその根拠について考えることが疎かになっていた部分があったりと講師の方の話を聞いて思いました。仕事の中で何気なくしていることにはちゃんと意味があるということをしつかり頭に置いて、何の為にケアを行うのかその必要性を普段の生活の中でも考え、それを活かしてケアを行うことができるようにしていきたいと思っています。

からだの水分量・体液がどれぐらいなのかについて学びました。新生児・乳児全体の体液量は七〇〜八〇パーセントで成人は六〇パーセントに対し、高齢者では五〇パーセントと加齢に伴い減少しているので水分をしつかり取るように促すことが必要だと理解しました。又、水分を取ることで脱水や脳梗塞などの予防に繋がるということを知り、飲み水を水分をなかなか取らない方も中にはいるので、飲み水を飲む環境を作ることが大事だということを講師の方もおっしゃっていました。そういう環境作りをできるようにしていきたいと思っています。

座ってから立つ時や立つて歩く時の注意点や介助のポイントについて詳しく学ぶことができました。座ってから立つ時の注意点は、急に姿勢を変えることで脳血液量の低下で起こりやすい起立性低血圧に気をつけることです。これは、声かけでも起こすことがあるので注意して介助するようにしたいです。又、立ち上がる時の注意点は利用者の視線と介助者の手の位置です。ケアのポイントとして自然な動きを阻害しないことと、支持基底面の圧中心点が安定していることです。このことに気をつけながら介助を行い、テキストなどを見てケアのポイントなどについて改めて知ることができ、意識して行うようにしたいと思います。

この研修を通して介助する上で注意することやケアのポイント、体のしくみについて詳しく知ることができました。又、講師の方がよくおっしゃっていた「根拠」についても改めて考えることができ、とても勉強になりました。今回、習ったことをこれからの生活にも活かし、介助を行うよう

にしていきたいです。又、習ったことを忘れないようにテキストを使いながら頑張っていきたいと思いました。

食中毒予防研修会に参加して

栄養士 小河原 美加子

食中毒の現状として令和四年発生原因の二位アニサキス、二位カンピロバクター、三位ノロウイルスとなっています。いずれも新型コロナウイルスによる制限などで、家庭内で生魚・鮮魚を調理し食べて食中毒を起こす事例が増えています。また、弁当などを買って食べるが増え、鶏肉の過熱が不十分、または長時間不適切な放置などが原因になっていることもあります。施設での食中毒の経路では、料理の加熱不足、温度管理や時間管理ができていない、保菌者による二次感染(人から人へ拡大)が起きています。直近に発表された食中毒状況を見ると行政処分には差があり、二日間営業停止、重いもので営業禁止があります。それは保存食の取り方、または施設の衛生状態が悪ければ処分も重いということでした。毎日の記録簿、食品の保管状況、調理場内の衛生面、食品の取り扱いなどを常に意識して、調理に携わらないといけないと感じました。

感染経路を断つためには(菌を)つけない!手洗い、洗浄、消毒の励行。(菌を)増やさない!温度管理の徹底。(菌を)やつつける!加熱を十分に行う。そして自分が感染源にならないためには、まず自宅でも手洗いをきちんと行う。そして出勤前の健康チェック。体調不良を隠さないことが最も大切なことと話されておりました。

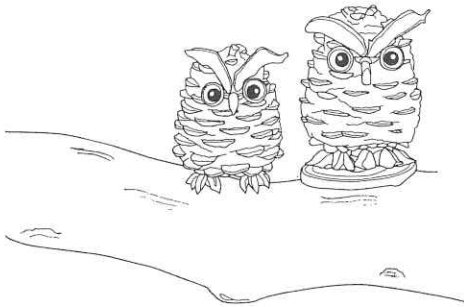
そして現在、新型コロナウイルスが5類になりましたが、決して軽い病気、心配のない病気になり下がったわけではありません。高齢者など重症化リスクの高い者を守ることを念頭に必要な感染対策を行っていかなければなりません。予防に予算は必要です。安全は決して安くありません。しかし、失う信用はお金で買えません。今すぐ取り組めるものは何なのか?すぐにできる一番の予防策は「手洗い」です。そして、研修で学んだ予防の具体策、食中毒(感染症)が発生した場合の対応策を職員の一人一人が理解し、習得して、行動へ移せることが大切だと話されていました。

施設内での情報を共有化し、利用者様が安全で安心して生活を送れるよう日々勉強し、努力していきたいと思っています。三時間の研修でしたが、大変有意義な研修でした。研修会に参加させていただき、ありがとうございました。

デイ・サービス太陽



2023年 10月



中秋の名月

奈留の名月も満月の日と
重なって、とってもきれいな“月”
でしたよ!!



「両手に花」まさしくです。

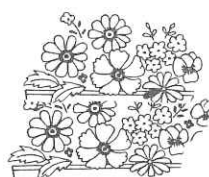


花見ドライブに行ってきました!
今年の桜もきれいでした。



「花見弁当」もとても美味しかったです。

春 らんまん



江上教会の前にて。笑顔が素敵です!



ミニミニ 運動会



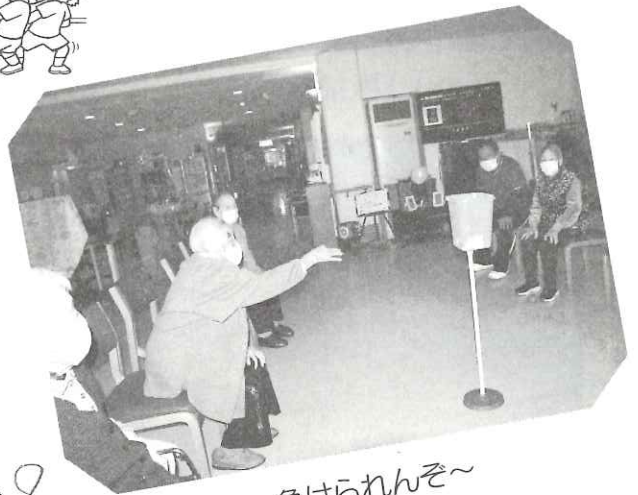
釣り対決



なかなか釣れないよう～
ガンバレ～



アドバイス通りしてるのに
なぜか??入らんよ!!



～負けられんぞ～



〈もう少し右…?左…?〉
うまいかなあ～



田中監督 何?指示しています
上手に輪が入りました

お母さん



“母ちゃん”に〈感謝〉
いつまでも笑顔いっぱい!!



いつも
ありがとう



『椿』と『うさぎ』



山口富喜男個展

木彫り特集



『お城』



江上教会をバックに〈ヤッホーい〉

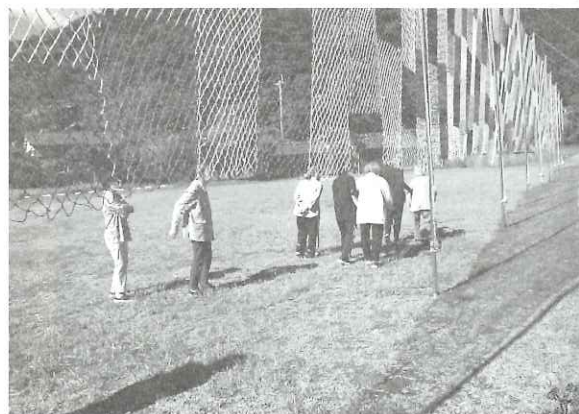
「そらあみ」見学in江上



今年も来ましたあピース♡



帰りたくなかるとに…〆〆



去年より長くなっつよ〜キレかね〜



トウース!!

(海風にも負けず…
精一杯の立ち姿・三人娘!?)



又とない、
すばらしい笑顔😊ですね!

バックの“陽花”がとても良く映えてます!



↑サクラの花にも負けず!!



海と山、言葉はいらないよね!!
しみじみ…

哀愁漂う二人…。



昔の若夫婦!?ではありませんが、
とても、どこかで、画になりますネ。



何見てんだよ!

貴方こそ、カメラ目線じゃん!!



〈沖の浦サクラ〉

ワンちゃん・どこから来たの?



江上天主堂前に掲げられた「そらあみ」の見学。(デイサービス)

日頃から、沢山の皆様方よりの『御芳志・御厚意・ボランティア・御協力』ありがとうございます。心より感謝を申し上げます。(名前の掲載につきましては、都合により割愛させていただきます。)



この紫陽花!!
花びんに差して
3ヶ月も経って
いるんですよ°°

編 集 後 記

7月1日より、グループホームのご利用者、職員、それぞれ特養の方へ移動され3ヶ月が経ちました。組織の中は、一人の力ではぜったいに成り立ってはいきません。チームワークを保つ為の「報告・連絡・相談」を大事にしながら、一人一人のご利用者に対して、必ず毎日がその方の為の一日であるように努めてほしいと思っております。まだまだコロナ禍での生活様式をしっかりと守りながら、施設内にコロナを持ち込まないように努力いたします。